アシモフ『われはロボット』のあらすじ

takaidos

われはロボット

アシモフ。
ロボット・シリーズ①

1941～1947年？順次執筆・発刊。日本語版は1983年11月。

ロボット工学の三原則。
『
第一条:
ロボットは人間に危害を加えてはならない。
また、その危機を看過することによって、人間に危害を及ぼしてはならない。
第二条:
ロボットは人間に与えられた命令に服従しなければならない。
ただし、与えられた命令が第一条に反する場合はこの限りではない。
第三条:
ロボットは、前掲第一条および第二条に反するおそれのない限り、自己を守らなければならない
。

ー『ロボット工学ハンドブック』
第五十六版、西暦２０５８年
』

インタープラネタリ・プレス: 2058年全太陽系に放送権を持つ。インタビュアーの"わたし"は32歳
。
人類の国家はひとつの地球になってそれぞれの地域としてコンピューター・マシンに管理を委ね
ていた。

スーザン・キャルビン:
1982年生まれ。
2002年心理数学の特別セミナーでアルフレッド博士の、最初の発声付き自立走行ロボットを観る
。先々水星の鉱山採掘用になる大型ロボットだった。
2003年コロンビア大学で学士号、大学院でサイバネティクス・コース。
2002年自立走行型喋るロボット完成。労働者ら反対。
2007年地球上でのロボット禁止決まる。USロボット社財政最悪。
2008年博士号取得。USロボット&機械人間株式会社 入社。
2015年第二次水星探検隊派遣。

2032年ロボットが市長になる。
2057年で75歳。
2064年、82歳で永眠。

ローレンス・ロバートソン: USロボットの創立者。
アルフレッド・ラニング博士: USロボットで初の自力走行ロボットを作った。

1/ロビイ Robbie
1996年製、子守用ロボット。自立走行可能。年収の半分の金額。
月にはすでに基地があり、ルナ基地からルフェーブル・ヨシダが火星探検に旅立とうとしていた時代。
地球。
グローリア・ウェストン: 8歳。シンデレラの話をロビイに聞かせる。
グレース・ウェストン: 母親。娘がロビイ以外の友達と遊ばないのを心配しロビイを捨てる。
ジョージ・ウェストン:父親。結婚十年だが妻を愛している。ロビイを失って落ち込む娘と妻と三人でニューヨーク見学に行く。
スーザン・キャルビン:15,6歳。ニューヨークの科学館でグローリアがロボットに話しかけている現場を見る。
ロバートソン・ストラザーズ:USロボット&機械人間株式会社の営業。ロボット工場を案内する。

第一原則により、ロビイはグローリアを助ける。

2/堂々巡り Runaround
2015年USロボット社と太陽系鉱業による第二次水星調査と採鉱。
第一次水星探検隊が超電波装置の設置に失敗したのは電波の使えない太陽側だったから。
第二次調査隊、水星到着後12時間。
元素のセレンを採掘に行かせたが5時間経っても帰って来ない。
スピーディは目的地付近のガスが自分の身体を腐食させるため、第二原則と第三原則の間でループして行ったり来たりしていた。

グレゴリイ・パウエル: 宇宙飛行士。
マイケル・ドノヴァン: 赤毛の宇宙飛行士。
スピーディ(SPD):水星環境に耐えられるように作られた採掘ロボット。

3/われ思う、ゆえに…. Reason

宇宙中継ステーション。

パウエルとドノヴァンは中継ステーションに異動になり、ロボットが地球へ送るビームをコントロール出来るかどうか監視しようとする。
しかし組み立てたロボットは自分のが人間より優れていると言い出し、ほかのロボットを従えて2人を監禁する。

キューティー(QT1):人間に作られたことを認めず、自分こそ主に仕えるという。

しかしパウエルとドノヴァンは自由を奪われながらも、実はキューティーが第一原則と第二原則に従って2人の安全を確保しながら使命を果たしたことに気付き喜ぶ。

4/野うさぎを追って Catch that rabbit

パウエルとドノヴァンは小惑星に来る。
デイブと6台のロボットが何かの条件に会うと不可解な体操や行進を始めてしまう。
緊急時に6台のサブロボットを操るのが困難だったのだ。

デイブ(DV5号):ほかの6台の採鉱サブロボットを従える複合ロボット。

5/うそつき Liar
2021年。スーザン・キャルビンは38歳。ロボットがおかしなことになって困った。

地球上？ロボット工場内。
ハービーは第一原則にのっとり、人間の心を読み取って人間の期待する答えをする。
結局それは嘘。
最後はキャルビンにボガートが取り組んでいる数学の問題を解くように命令され、ボガートの名誉を傷つけないようにしてジレンマに陥りハービーは壊れる。

スーザン・キャルビン:心理学者。
ハービー(RB34):人心を読むロボット。数学の天才だが小説を読むのが好き。
アルフレッド・ラニング:所長。約70歳。。行列力学。
ピーター・ボガート:数学者。数学主任研究官。
ミルトン・アッシュ:USロボット社の最年少の技術主任。RB34ハービーが人心を読む事に気付く。

6/ 迷子のロボット Little Last Robot
2029年。第27小惑星群のステーション・ハイパー基地で1台のロボットが行方不明になった。
そこでは超原子力エンジンのメンテナンスをしていたが、1台のロボットが消えたことで、当該空域は出入禁止になった。
ネスター10号は他の同型機62機の中に紛れ込んだ。
しかし第一原則が緩和されていたため、人に危害を加える可能性があった。
スーザンはどれがネスターかロボットと面接・テストして発見に成功する。

カルナー:陸軍少将。イライラしてネスターに消えろと行ってしまった。
ネスター10号(NS2型):放射線から作業員を守りつつ自分の陽電子頭脳も守る必要性から、第一原則を緩和された。
ジェラルド・ブラック:エーテル物理学で学位をとり、ロボットにもそれを教えた。

7/ 逃避 Escape
合同ロボット会社が星間用エンジンの設計に関する計算処理をUSロボット社に依頼して来た。
彼らのロボットはこの計算処理でジレンマを起こし壊れてしまったのだ。
キャルビン博士はブレーンに第一原則を緩和するよう伝える。
ブレーンはその計算と開発に成功し、パウエルとドノヴァンを星間ロケットに乗せて発射してしまう。

ブレーン:USロボット社のロボット。星間用エンジンを搭載した宇宙船の設計と開発に成功する。
ロバートソン:USロボット社社長。
エイブ・レヴァ:USロボット社営業部長。

8/ 証拠 Evidence
2032年、スーザン・キャルビン50歳。

スティーブン・バイアリイ:地方検事。次期市長に立候補しようとするが飲食睡眠を観た者がいないのでロボットと疑われる。
ラニングとスーザン・キャルビンは、クインにバイアリイがロボットでないか調査するように頼まれる。
バイアリイは調査員によってX線写真を撮影されるも遮断するものを身にまとっていて失敗。
クインはますます疑いを深め、反対キャンペーンで市民を扇動。
立候補演説のときにバイアリイの前にひとりの男が「ロボットだったら人間を殴れまい。殴って

みろ」と立ちはだかる。
バイアリイは彼を殴り、選挙でも当選する。
しかしあとでキャルビンはバイアリイと話し、車椅子のジョンこそ本物のバイアリイであることを確認する。
ロボットが市長になった瞬間だった。

フランシス・クイン:政治家。バイアリイをロボットと疑い、ラニングとキャルビンに調査を依頼する。
ジョン:車椅子の男。バイアリイの主人。

9/災厄のとき The Evitable Conflict

2052年、スーザン・キャルビン70歳。
ラニングもボガートもすでにいない。
バイアリイは過去の歴史の流れを振り返り、いまマシン(コンピューター)による世界情勢の制御がうまく行かなくなったとキャルビンに相談する

キャルビンはロボットを作った人間がすでにロボットの中味が分からなくなって来ていると言い、ロボットが人間社会・世界情勢を管理して行くという。
話の前提として、高度に発達したロボット・マシンはロボット三原則に基づいて人間社会を管理している。
ある種のグループ・人間同盟(=権力者や経営者など)が自分たちの利益を必要以上に追求するとバランスが保たれている社会が不安定になって行く。
マシンは人間社会から不幸や悲惨さを取り除いて来た。
これからの人類の社会がもっと統制管理されて行くのか、田園生活風に戻るのかはマシンのみが知っている。
特定の人間がマシンで計算予測して人類の社会に影響を及ぼしてはならない。
マシンが対処してくれる。
人間による全ての紛争が避けられる。

スティーブン・バイアリイ:世界統監。
ヴィンセント・シルバー:USロボット社社長。